

1. 教育支援

- (1) 学習環境の整備
 - ・ 霞図書館での文献複写等の料金の支払いを、クレジットカード、ICカード、スマートフォン決済等のキャッシュレス決済を可能とした。
- (2) 学習用資料の整備
 - ・ 医中誌 Web のアクセス数を無制限、かつ VPN サービスによる学外アクセスを可能とした。
 - ・ 2021年7月、教養教育の講義をされた黒川清氏が、講義の中で紹介された冊子「リーダーを目指す人にすすめる古典七〇」で紹介されている図書を整備し、2021年10月から2022年3月まで図書展示「古典七〇」を行った。
- (3) ライティング支援
 - ・ 大学院生の学生チューターによるオンラインのライティング個別相談（日本語文章および英語文章）を実施した（124件）。
- (4) 情報リテラシー教育
 - ・ 図書館の利用講習会を実施した（12回）。
 - ・ 新入生必修授業の「大学教育入門」（受講生 2,336人）において「図書館の使い方と資料の収集」「アカデミックライティング」の講義を実施した。
- (5) 学生サポーターHULS
 - ・ 中央図書館の図書を集めた展示を2回（8月、1月）に行った。
 - ・ オンラインビブリオバトルを実施、HULSのメンバーが参加した。
 - ・ Web上の謎解きゲームブックを作り、図書館 Web サイト内にある HULS 専用ページで公開した。

2. 研究支援

- (1) 英語論文執筆支援
 - ・ 研究者の英語論文の執筆を支援するために、ライティングセンター教員とライティングアドバイザーフェローによるオンラインでの個別相談を実施した（491件）。
 - ・ 英語論文の執筆等に関するワークショップ、セミナー等を実施した（16回）。
- (2) 機関リポジトリからの研究成果発信
 - ・ 新規に論文等の研究成果の登録・公開を行った（1,507件）。
- (3) 広島大学出版会での研究成果の出版
 - ・ 広島大学での教育研究成果の公開を目的として、書籍の出版を行った（新規出版4冊、プリントオンデマンド出版3冊）
 - ・ 新たに Maruzen eBook Library での電子書籍の販売を開始した。
- (4) 電子ジャーナル・データベース
 - ・ 電子ジャーナル・データベースの利用講習会を実施した（38回）。

- ・ 令和 4～9 年度の電子ジャーナル・データベースの整備について WG で検討を重ね、これまでのパッケージ契約を継続し、購入タイトルを維持することで第 4 期をスタートさせることになった。

(5) 資料の電子化

- ・ 国文学研究資料館ネットワーク事業で新たに 94 点 10,018 コマの電子化を行うとともに本学で作成した電子化資料 32 点 986 コマを提供した。
- ・ 奈良絵本画像の IIF 公開に向けて画像のライセンスの検討とシステムの改修を行い、3 月に広島大学図書館デジタルアーカイブを公開し、初期コンテンツとして奈良絵本画像 31 点を公開した。

3. 社会貢献

- ・ 令和 3 年度広島市立図書館・広島大学図書館連携講演会「ヘルスマインドによる空間づくり ～ヒートポンプによる省エネを交えて～」を広島市立中央図書館で開催した。

4. 管理運営

- ・ 中央図書館および西図書館入退館用の IC カードリーダーを新型コロナウイルス対策のため通用口に設置していたが、新たに中央図書館および西図書館の正面自動扉に設置し直した。
- ・ 広島大学と株式会社日本クライメイトシステムズの大学施設のネーミングライツの締結により、中央図書館 1 階奥の新聞コーナーは jcs Lounge という名称になり、看板および jcs のパンフレットを設置した（2021 年 10 月から 2024 年 9 月まで）。
- ・ 図書館寄付金として 37 人から合計 53 万円の寄付を受けた。

1. 教育支援

- a) 「英語多読コーナー」の充実および授業との連携（担当教員が同コーナーの図書を使う課題を出し、学生が館外貸出により使用）。
- b) マンガコーナーの充実（約2,700冊）。
- c) 視聴覚資料の充実（主にDVD・Blu-rayソフト：約400点）。
- d) 各学科教員選定の基本図書、各研究科教員選定の大学院用図書の整備。
- e) 新型コロナ対策による、遠隔地在住学生への複写物・図書の郵送サービス。

2. 研究支援

- a) リポジトリ登録の推進。
- b) 電子ジャーナル・データベースの活用促進や学外アクセス（日経テレコン21など）。
- c) 国立国会図書館「デジタル化資料送信サービス」の活用促進。

3. 社会貢献

- a) 共同リポジトリでの学内成果物のweb公開。
- b) 共同リポジトリでの貴重資料（下垣内文庫）のweb公開。
- c) 公共図書館との相互貸借などの連携。

4. 管理運営

- a) 学生アルバイトの活用（授業期間のみ・平日16:30～20:15）。

1. 教育支援

- ・ 学科推薦図書，教員推薦図書，コースカタログ掲載参考文献等のコーナーを整備。
- ・ 新入生オリエンテーション，初年度授業「大学基礎セミナー」の一環として，図書館の利用や文献検索に関するガイダンスをオンラインにて実施。
- ・ 「良い評価を取るためのレポート講座」「プレゼンテーション向上ワークショップ」の2講座をオンラインにて実施。
- ・ 学生による Web 選書・オンライン脱出ゲームを実施。
- ・ コロナ課における利用者サービスの実施（図書の宅配貸出サービス，館内資料の文献複写郵送サービス）

2. 研究支援

- ・ 教職員からのレファレンス及び相互貸借サービスの個別対応。
- ・ 機関リポジトリ登録（広島キャンパス）
『地域創生学部紀要 第1号』
『大学教育実践センター紀要 第2号』
- ・ 看護教員養成講座（19名）への図書館使い方セミナー実施。（三原キャンパス）

3. 社会貢献

- ・ 令和3年度は学外者へのサービスを停止していたため該当なし。

4. 管理運営

- ・ 図書館利用アンケートを実施
- ・ 学術情報センター報（図書館報）の発行
- ・ 大学の活動基準に沿った図書館の運営，それに伴う利用案内の周知

1. 教育支援

- 1) **新入生図書館ガイダンスを司書総出による個別対応の新様式で実施した。** オンラインで図書館ガイダンス動画を各自試聴した後、4/19-4/28の間431名の新入生が各自図書館を訪れ課題解決シートに取り組んだ。（課題シートに回答した後、窓口で司書が答え合わせをし設問意図の説明と助言。シートに判を押し終了。）※座学の時よりも高い出席率（R4は95%以上）が出た。
- 2) コロナ禍により図書館など学内施設を利用したいという学生アンケートに応じ、急遽、経験者の学生アルバイト2名、職員1名の3人体制を作り、「**コロナ禍の学生応援 7-9月土曜特別開館**」を実施した。（開館日10日、来館者延べ254人）
- 3) **12-14代目知の鉄人の誕生。** 2021年8月から10月にかけて、読書、映画、美術展鑑賞を勧める知のトライアスロンで、最難関の知の鉄人コース（読書60冊、映画40件、美術展20件、計120件の鑑賞とその推薦コメントの投稿に取り組むコース）を達成した学生が3名現れ表彰した。
- 4) 図書館webサイト内に学内限定の動画サイトをvimeoで構築し、図書館ガイダンス動画から、随時のトピックスや学生に助言したいことを短く伝えるミニHow to動画などを発信した。

2. 研究支援

- 1) **学術情報リポジトリの運営**
コンテンツ数28件増加（累積1730件）、ダウンロード数125,634件
- 2) 「専門の教員の眼で見た不要図書の選定会」の初実施。開館27年を経て内容が古くなった開架図書の除架を、各学部の教員の協力を得て初めて実施した。（情報科学部系5名で約500冊、国際学部系9名で約500冊を除架）
- 3) 「教員によるオンラインブックハンティング」を開催。学術的な目で図書館に置く図書の初選定を行った。

3. 社会貢献

コロナ禍により学外者への直接貢献はなかったが、例年通り広島市立図書館を經由し本学所蔵図書の貸出を行った。

4. 管理運営

「附属図書館の将来像 2022-2027」を策定し、2021.12.3の図書館運営委員会で承認を得た。

5. トピック

2021.12.14(火)深夜、日テレ系「月曜から夜更かし」の中で本学の図書館展示『**残念な図書たち**』が放映された。企画展示の発端は、**選書の自省**の意味もあり、0類（情報などの総記）、4類（自然科学）、5類（工学など技術）など、部門別で利用履歴0回の図書のデータ、割合を出したことであり、貸出履歴が0回であるが有用で面白そうな図書を敢えて発表・展示し、学生の興味・利用を促した。

1. 教育支援

- ・学生向けガイダンスのカリキュラム化（都市経営学部1年次で必修）
学内の状況により、対面実施と、コンテンツ提供の併用
- ・個別ガイダンスをアラカルト方式で実施
学内の状況により、対面実施、リアルタイムオンライン、ゼミ室等で実施
- ・電子書籍の導入
- ・選書ツアーのほか、購読雑誌及び視聴覚資料の選定アンケートを実施し、蔵書の選定に学生が参画
選書ツアーは、期間を設け指定の書店で自由に選書できる形式や、Web形式を実施
- ・企画展示の実施（選書ツアー・教員著作、電子書籍利用促進等）
- ・学部生のILL費用を教育振興会より全額支援
- ・自宅学習支援サービス（貸出資料の郵送、防災センターでの引渡し、ILL文献複写の郵送等）
- ・ProQuest社の講師による、「ABI/INFORM」「Political Science」のデータベース利用講習会を実施

2. 研究支援

- ・共同リポジトリへの紀要論文の登録及びDOIの付与
- ・国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供
- ・教員研究費購入図書取扱規程を制定（図書登録は備品図書及び備品視聴覚資料のみとする）

3. 社会貢献

- ・一般開放（閲覧、貸出、施設利用）新型コロナウイルス感染拡大防止のため一時停止
- ・近隣団体、高等学校、特別支援学校、大学附属幼稚園、海外からの見学受入
新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施
- ・包括連携協定を締結した福山シティフットボールクラブの選手や監督など28人によるお薦めの本とコメントの展示及びSNSでの情報発信
- ・選書ツアーの実施書店と選書された本の紹介・展示するコラボフェアを実施

4. 管理運営

- ・夜間開館（平日21時まで）及び、カウンター業務補助の学生アルバイトを雇用
- ・夜間開館時に、防災センターの警備員による巡回監視を実施
- ・カウンター内部に非常通報装置を設置

- ・ 入口付近に防犯カメラを設置
- ・ 閉館 5 分前に BGM を放送
- ・ 書架に蔵書検索用タブレットを設置
- ・ 2020 年 3 月より利用停止していたグループ学習室について，新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じて利用を再開
- ・ グループ学習室にサーキュレータ及び空気清浄機を設置
- ・ 寄贈図書について，市民等からの受入れを分かりやすく周知するため，対象図書や手続の流れ等をホームページに掲載
- ・ 入館者数の増に向け，学生の学習環境や図書館利用に関するインタビュー調査を実施（インタビュー調査をもとに質問項目を整理し，2022 年度にアンケート調査を実施）

1. 教育支援

- ・2013（H.25）年度から3年計画でシステム化に取り掛かったが、途中で図書館の一部を建て替えるために中断したこともあり、業者への支払いは完了しているものの、まだ完成には至っていない。入力作業も終盤になりつつあり、利用者にとって使いやすいシステムになるよう引き続き取り組み中である。
一部は、学内限定でOPAC公開し、2016年度11月から図書と楽譜はシステムでの貸出を行っている。
図書はOPAC、楽譜はOPACとカードボックス併用、視聴覚資料はカードボックスで検索している。
- ・新入生への図書館オリエンテーションを実施した。
- ・学生へのOPAC利用ガイダンスを、要請に応じて随時開催している。
- ・試験週間に延長開館を実施した。
- ・長期休業期間中の特別貸出（期間・冊数）を実施した。

2. 研究支援

- ・図書館が研究紀要の事務局を担っている。
- ・大学院生奨学金制度として、学習支援アシスタント（作業部門）院生を採用している。
- ・図書館内での授業実施申出に応じている。

3. 社会貢献

- ・館長が許可をした高等学校等の授業のために、主に音楽関係資料の館内利用を認めている。
- ・国内外からの見学希望を受け入れている。
- ・休日開催のオープンキャンパスや学内授業公開日に開館し、説明を行った。

4. 管理運営

- ・閲覧室の学生用プリンターを買い替え、事務室のプリンターを増加した。
- ・コロナ対策として、空気清浄機の台数を増加した。
- ・大学院図書室の蔵書点検を行った。
- ・閲覧室に電動集密書架の追加申請を相談中である。

1. 教育支援

- ・電子ブック「メディカルオンラインイーブックスライブラリー」「LibrariE」導入
- ・講習会を Google Classroom（全学年：前期、後期）、Google Meet（1年生：5月3回）で実施
- ・広島県立図書館インターネット予約貸出サービス開始
- ・展示会（ミニを含む）の実施（11回）
- ・ブックハンティング（オンライン選書）実施（1回）
- ・図書館インスタグラム開設（11月）

2. 研究支援

- ・紀要第22巻刊行
- ・リポジトリ登録（5件）、ダウンロード（104,001件）
- ・購入雑誌アンケート実施
- ・視聴覚資料購入希望アンケート実施
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、院生対象に文献複写、貸出図書を郵送（有料）

3. 社会貢献

- ・予約制で学外者利用再開（11月～）
- ・コロナ禍のため看護職等対象文献検索講習会は中止

4. 管理運営

- ・ブックキーパー（書籍落下防止装置）設置
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、閲覧機のパーテーション改修
- ・蔵書点検（研究室：2月～3/11、図書館：3/15～31）
- ・除籍（図書1,536冊、視聴覚資料243点）
- ・除籍資料、廃棄雑誌の譲渡
- ・日本赤十字広島看護大学ブックケアプロジェクト（古本募金）の実施
- ・図書館システム更新

1. 教育支援

- ・電子書籍の購入（一部、後援会予算で Maruzen eBook の試読を実施後に選書）
- ・中学校の教科書改訂に伴い整備する。
- ・初年次セミナーにおける図書館利用案内 希望グループには対面で実施。
- ・キャリア教育科目において、新聞データベースの利用指導
- ・ラーニング・コモンズ (Me+Library) を遠隔授業受講のために開放。
- ・図書館募集企画の実施 オリジナルうちわを作成

2. 研究支援

- ・リンクリゾルバの導入に向けて調査し、業者を決める。（実施は次年度）
- ・短期大学部紀要の投稿要項・執筆要項を改訂する。
- ・大学紀要、短期大学部紀要の編集業務
- ・リポジトリへの登録
- ・電子書籍の購入（マスコミュニケーション学科を中心に選書）
- ・研究図書・雑誌等の発注と受入
- ・電子ジャーナルやデータベースの購入

3. 社会貢献

- ・広島県立図書館の横断検索サービスに参加。

4. 管理運営

- ・コロナ対策として、高性能オゾン発生器、サーマルカメラを購入。飛沫防止パーテーションを未設置の机に設置する。
- ・SARTRAS（授業目的公衆送信補償金等管理協会）関連業務を、法人事務局に移管。
- ・古本募金（バリューブックス）の実施 約10万円の寄付あり
- ・蔵書点検 図書館の2階部分を実施する。除籍の実施 1,169冊

1. 教育支援

- 1) 1年次の全ゼミを対象に、授業の1コマを利用し、最初の13ゼミは対面で、残り41ゼミはオンライン授業用に作成した動画による教材で図書館ガイダンスを実施（利用方法、OPACを使用しての図書の探し方など）。
- 2) 2年次ゼミを対象に、図書館ガイダンスを実施（利用方法、図書の探し方実習、新聞データベースの利用方法など）。
- 3) 3・4年次ゼミを対象に文献ガイダンスを実施（図書及び雑誌記事・論文検索の方法など）
- 4) ブックハンティングの実施（前期：電子ブック試読サービス、後期：学内特別展示）
- 5) 「VPN接続サービス」の導入
- 6) オンデマンドプリンター2台設置

2. 研究支援

- 1) 学術情報リポジトリ
 - ・新規コンテンツ登録件数：29件
 - ・年間ダウンロード件数：328,726万件
- 2) 「EBSCO host」のオンライン講習会を実施

3. 社会貢献

特記事項なし

4. 管理運営

新型コロナウイルス禍中の処置として、

- 1) 新型コロナウイルス感染防止策として、飛沫防止シートの設置、座席間隔の確保、入館時の手指消毒及び検温、閉館後の除菌作業、入退館者記録の作成等を施す
- 2) 学外者については、利用停止を継続中
- 3) 授業期間中の平日夜間開館時間を段階的に復活
 - ・2021/11/22～12/27 19：00まで
 - ・2022/01/05～1/28 20：00まで
- 4) 除籍雑誌のリユースイベントを実施（対象：学内者のみ）

1. 教育支援

- (1) 情報リテラシー教育
 - ・ 新生を対象に12の学科ごとに「図書館ガイダンス」を対面式や体験型で実施した
 - ・ ゼミ生を対象に、蔵書やデータベース、電子ジャーナルなど検索セミナーを実施した
- (2) 図書の郵送貸出
 - ・ コロナ禍で臨時休館中に、学生を対象に郵送での図書貸出を実施した
- (3) 新聞の閲覧再開
 - ・ 2020年4月から停止していた全国紙や地方紙、英字紙など19紙の閲覧を再開した
- (4) 図書館学生アドバイザー（通称学アド）
 - ・ 学アドが企画・運営して会場型のビブリオバトルを実施した
 - ・ 読んでほしい本のオリジナルの帯を制作するイベント「帯ワングランプリ」に、メンバーが応募した
- (5) ブックハンティング
 - ・ 学生が書店に出向き、1人に与えられた金額以内で図書館の蔵書を選ぶブックハンティングを、オンライン上の書店から選ぶ方式で開催した。21人の学生が参加して362冊の購入リストを提出。この中から298冊を購入した

2. 研究支援

- (1) 広島工業大学紀要の発行
 - ・ 研究編と教育編の2冊を刊行した
- (2) 機関リポジトリからの研究成果発信
 - ・ 新規に論文等の研究成果の登録・公開を行った（23件）
- (3) 電子ジャーナル・データベース
 - ・ 教員への購読希望調査を基に、和洋の学術雑誌（冊子体、電子媒体）やデータベースを選定した

4. 管理運営

- (1) 網戸の設置
 - ・ 感染症の予防対策の一環で換気を良くするため、閲覧室や自習室などの開閉式の窓に計54枚の網戸を設置した
- (2) 広報
 - ・ 大学広報誌（年2回発行）の中の図書館のページに、教員と学生の書評や図書館活動を紹介する記事を掲載した
- (3) 図書や雑誌の無償譲渡
 - ・ 除籍した図書・雑誌を希望者に譲るイベントを、図書は7月、雑誌は11月に実施した

(4) ガラス窓アート

- ・ 図書館の出入口横の窓をキャンバスとして学生有志に提供し、イラストを描いてもらった

1. 教育支援

- ・ 新入生に対して図書館利用説明会の実施。 (オンデマンド動画の活用開始)
- ・ ブックハンティングの実施。
- ・ HIU (広国大) 電子図書館の利用促進

電子ブック利用促進のため、学生・院生に対して利用者 ID とパスワードを発行し、利用有効期間を「卒業年度の3月31日まで」とした。コンテンツも、芥川賞・直木賞受賞作品、医療小説、自己啓発、エッセイ等の学生が日常的に利用しやすいものを追加し読書推進を図った。

2. 研究支援

- ・ 電子ブック無料トライアルの実施。

当館が契約している、「Maruzen eBook Library」、「メディカルオンラインイーブックス」、「KinoDen」について、無料トライアルを実施した。

- ・ 学認、リファラ認証の導入

学認対象データベース：「医中誌」、「メディカルオンライン」

リファラ認証対象電子ブック：「Maruzen eBook Library」、「KinoDen」

対象データベース等におけるリモートアクセスの容易化を目的として、「学認」及び「リファラ認証」を導入した。情報センターより発行されている大学の ID・パスワード等で対象データベース等のログインが可能となり、学外での利用が容易となった。

3. 社会貢献

- ・ くろせ・ひろこく交流図書館の実施。

本館と東広島市立黒瀬図書館両館で100冊ずつのお勧め本を交換し、互いの館で展示紹介および貸出しを行うイベントを開催。

4. 管理運営

- ・ 図書館報の発刊 (年1回)

1. 教育支援

- ・ レポートや卒業論文の作成に「聞蔵Ⅱビジュアル（現在は朝日新聞クロスサーチ）の活用を支援
- ・ 日本語関連図書の電子ブック活用を支援。問題集など学生希望図書を多数購入

2. 研究支援

- ・ 電子ジャーナル、データベースの提供
- ・ 研究報告第54巻の発行
- ・ 共同リポジトリへの紀要論文等の登録

3. 社会貢献

2020年4月以降、新型コロナウイルス感染予防対策で学外者の入館を中止しています。

4. 管理運営

- ・ 書庫整理・除籍の実施
- ・ 新型コロナウイルス感染予防対策の実施（机等の清掃、換気、設備の配置換えなど）

1. 教育支援

a) 学習環境

コロナウィルス感染症拡大防止のため、本学も入構制限を行った。

b) 学習支援

主に学習支援センターが担当。

- ・学習支援センターが実施するLSCドキュメンタリーアワーに伴う企画展示2回

c) 情報リテラシー教育

①修大基礎講座（図書館活用法）、初年次セミナー

授業の中の1コマを図書館がサポートする形で、施設の利用方法や初歩的な検索方法を紹介した。修大基礎講座は、大学の学びに必要な学習スキルを習得すること等をねらいとして設置されている授業科目。前期に1年生全員が学科毎に受講する。2021年度は12クラス実施。初年次セミナーも同様に1年生が受講するが、学部学科により実施の有無が異なる。2021年度は14クラス実施。開催時期により、対面とオンラインの2パターンで実施。

②文献検索ガイダンス

教員からの個別の要望に基づき、学生が適切な情報資源にたどり着けるようガイダンスを実施。2021年度は38クラス、うちオンライン2クラス、オンデマンド3クラスで実施した。

d) その他

- ・図書館が年2回刊行している情報誌『BOOKMARK』で紹介された図書の展示を2回実施した。
- ・学習支援センター、英語担当教員との連携による英語多読マラソンを実施した。

2. 研究支援

- ・機関リポジトリからの研究成果発信（紀要論文集）

3. 社会貢献

- ・広島修道大学デジタルアーカイブのジャパンサーチとの連携

4. 管理運営

大学の活動指針危機レベルに沿った図書館の利用制限緩和を実施

〈利用制限緩和の事例〉

- ・閲覧席の利用制限緩和
- ・入館予約の撤廃
- ・利用者用PCの利用制限台数の緩和
- ・視聴覚コーナーの利用再開（制限付き）
- ・自習室の利用再開（制限付き）
- ・畳コーナーの利用再開（制限付き）

1. 教育支援

(a) 学修環境

図書館内のWiFi環境の強化

(b) 学修支援

- ①ラーニング・アドバイザーによる個別学修支援（Google Meet）の強化及び各種講座（Google Meet・オンデマンド配信）の充実：本学コロナ活動指針のレベルが低い時は対面で実施
- ②英語多読図書としてネリーズの洋書購入
- ③就活本コーナーの資料の充実

(c) 利用者サービス（コロナ禍における利用者サービス：①～③）

- ①図書の貸出郵送サービスの実施
- ②閲覧・複写予約サービスの実施
- ③館内限定利用のデータベースの複写・郵送サービスの実施
- ④絵本専用の部屋のディスプレイ
- ⑤ブックハンティングの実施（選書本の展示）
- ⑥図書館職員のおすすめ本展示
- ⑦話題性のある図書の購入（テレビ等で紹介された本を積極的に購入・展示）

(d) ガイダンス関係

- ①初年次セミナー図書館案内の動画作成・配信（初日のみ対面で実施）
- ②4年生卒論学科ゼミガイダンスの実施

2. 研究支援

来館せずに利用できる学修・研究支援として

- ①データベースのリモートアクセスの実施（聞蔵Ⅱ、Academic Search Complete）
- ②EBSCO電子書籍のトライアル及びリモートアクセスの実施（同時アクセス無制限）

3. 社会貢献

児童教育学科の学生を中心として企画された「よるのとしょかん」を開催し、子どもたちに絵本や図書館への関心を深めてもらう活動を行った。

4. 管理運営

- ①蔵書点検の実施
- ②資料の除籍（狭隘化対策等のため）

1. 教育支援

- ① 実習用長期貸出（長期実習に出る学生を対象に、貸出期間を2週間から4週間に延長）
- ② ガイダンスの実施（新生・データベース等）
- ③ 講義・ゼミとの連携
 - ・課題関連本の展示
 - ・講義・ゼミの担当教員の要望に沿った個別メニューによるガイダンスの実施
- ④ オンライン書店利用及びリクエスト募集形式によるブックハンティングを実施（年2回）

2. 研究支援

- ① 講義資料の一部保管
- ② 学術機関リポジトリへのコンテンツ登録
- ③ 学内発行誌にDOIの付与
- ④ 検索データベースポータルサイト

3. 社会貢献

- ① 広島市立翠町中学校への職業講和
- ② 図書館サークルの活動
 - ・公共図書館との連携（企画展示・認知症ブックカフェ）

4. 管理運営

- ① 廃棄予定の雑誌及び除籍資料の譲渡会を実施
- ② 蔵書点検の実施

1. 教育支援

- a) 学習環境の整備
 - ・音楽学科・保育学科の楽譜重点収集（長束キャンパス）
 - ・資格や教員採用試験・看護実習・教育向けの図書充当（阿賀・坂キャンパス）
- b) ガイダンス
 - ・対面とオンライン授業の併用の中、文献検索 OPAC 活用教材 PDF で案内
- c) 学内のアクティブ・ラーニング施設の利用促進
 - ・ラーニングcommons利用回数 842 名（長束キャンパス），オープンcommons利用回数 742 名（阿賀キャンパス）
- d) 電子リソースの強化
 - ・ビジュラクラウド（医学・看護・健康映像配信サービス）の提供を継続・充実
 - ・全キャンパスで電子書籍の試読サービスを年2回計5か月間開催。
- e) 本に関わるサービス
 - ・授業連携で「100冊の本」を展示（阿賀キャンパス）
 - ・入構制限時の資料郵送サービスの開始

2. 研究支援

- a) 広島県大学共同リポジトリ（HARP）参加。紀要論文と博士論文の登録
- b) データベースの横断検索（EBSCO host の契約による）
CINAHL with Full Text, Psych Articles, Medline 等の横断一括検索を提供
- c) 人間健康学部の海外文献電子ジャーナル 20 タイトルを新規導入

3. 社会貢献

- a) 地域住民の方々への利用は3月より停止し、卒業生のみ受入。

4. 管理運営

- a) 館内に新型コロナウイルス感染症対策のため、業務用換気機器3台設置（長束）
- b) 閲覧室の天井改修工事を実施、照明機器等レイアウト変更（阿賀）
- c) ベンダー変更を伴う図書館システムリプレースを実施、データの全面移行完了

1. 教育支援

- a) 学修環境の整備 実習貸出、長期休業貸出、卒業論文作成のための長期貸出
- b) ゼミ対象ガイダンスの実施
- c) 授業「図書館概論（大学図書館回）」
- d) ブックハンティング実施 1回（オンライン選書）
- e) 各種展示 特集コーナー：2回 新着図書展示：随時
- f) ラーニング・モース[®] 設置資料の充実
- g) あらいぐま博士の『読んどる』（電子版）発行 年1回 読書推進
- h) 国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスの提供

2. 研究支援

- a) 研究用図書の管理 研究室貸出資料の点検
- b) 機関リポジトリ 研究紀要の登録
- c) データベースの契約、オンライン利用説明会実施
- d) 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供

3. 社会貢献

令和3年度は、学外者サービスを停止していたため、該当なし

4. 管理運営

- a) 蔵書点検（全館・研究室貸出資料・教室貸出資料）
- b) 感染症拡大予防対策の実施

1. 教育支援

- ・『新入生にすすめる50冊の本』刊行
- ・図書館倶楽部（学生ボランティア）の活動支援
Library News Vol. 15、Vol. 16 刊行
オンライン読書会主催 1回
大学ビブリオバトル・オンライン大会 2021 参加（2名）
図書館環境整備（館内カーペット張替えのための什器移動、館内大掃除）
- ・図書館ガイダンスの実施 雑誌・論文の探し方も含む
実施 18回 513名（申込 20回 544名）
- ・ガイダンス動画の作成・学内ポータルサイト内で公開
（蔵書検索・マイライブラリ、CiNii、MeL、ディスカバリーサービス、医中誌 web）

2. 研究支援

- ・ディスカバリーサービス Summon 導入（2021/04～）
- ・データベース利用講習会（オンライン）の開催
Sci Finder-n 2021/09/27 34名参加
ディスカバリーサービス Summon
2021/06/15（2回）32名 2021/11/22（2回）19名参加
- ・学術情報リポジトリにより、研究成果を発信
- ・Maruzen eBook Library 試読サービス実施（6～7月、12～1月）
これに伴う学内ブックハンティングイベントの開催（年間2回）
（2021/07/12～2021/07/23、2021/11/26～2022/01/14）
- ・ELNET DB トライアルの実施（2021/07/01～2021/07/09）

3. 社会貢献

- ・本学読書推進システムを近隣高校で実施

4. 管理運営

- ・図書館倶楽部ミーティングを週1回実施（毎週水曜昼休み）
- ・図書郵送貸出・返却サービスの実施（本学学生限定）
- ・授業目的公衆送信保証金制度加盟

1. 教育支援

(1) 情報リテラシー教育

- ・ 図書館の利用講習会を対面で実施した（4回）。
- ・ 新入生必修授業の「平大入門ゼミ」（受講生 294 名）において「図書館の活用方法」についての講義を録音したものを配信した。

2. 研究支援

(1) 機関リポジトリからの研究成果発信

- ・ 新規に論文等の研究成果の登録・公開を行った（50 件）。

(2) 電子ジャーナル・電子データベース

- ・ ディスカバリーサービス（Summon）を導入した。
- ・ 「Business Source Complete」、「メディカルオンライン イーブックス ライブラリー」のトライアルを実施した。

3. 社会貢献

(1) イベント

- ・ 出版された図書について執筆者と参加者が対話する哲学カフェを ZOOM で実施した（2 回）。

4. 管理運営

(1) 開館日

- ・ 月曜日～金曜日に変更となった。（但し、祝日及び大学が指定した休日を除く）

1. 教育支援

a) 学習環境

- ・ 授業参考図書の充実（各学科教員からの推薦図書の購入、授業関連図書の展示）
- ・ 選書キャンペーン(ブックハンティング)を夏季休業期間中に実施（9年目）
- ・ 完成年度に至るまで重点的に関連図書を購入
（ビジネス心理学科・公共経営学科・生活デザイン学科建築コース）

b) 利用者サービス

- ・ 図書館情報誌「Patio」(パティオ)発行（年3回）
- ・ 新入生図書館利用ガイダンスの実施
- ・ 2年生以上の学生を対象とした図書館利用・文献検索ガイダンスの実施
- ・ 教員を対象としたデータベース利用講習会の実施
- ・ 各種ガイダンス動画・資料の提供
- ・ 企画「大学教員が選ぶ図書150冊」の実施（年2回）。学科教員による推薦文を添えて、図書館ホームページ並びに図書館展示で紹介。
- ・ ラーニングcommons内での新着図書展示
- ・ 優良利用者表彰の実施（来館回数・貸出冊数の2部門、年2回）
- ・ 展示コンテストを12月に実施（10チーム25名が参加）。

2. 研究支援

- ・ 安田女子大学紀要の刊行
- ・ 学術リポジトリの公開（本学紀要のうち許諾があるものすべてを公開）
- ・ 研究分野（文系・理系）ごとに予算配当し研究用図書を購入

3. 社会貢献

- ・ オープンキャンパスでの館内自由見学

※新型コロナウイルス感染拡大以降、現在まで学外者の利用をお断りしている。例年受入れを行っている近隣中学校職場体験も中止。

4. 管理運営

a) 施設管理

- ・ 図書館システムの更新を検討

b) 資料保存対策

- ・ 貴重資料室の害虫調査<毎月>

1. 教育支援

a) 学習支援・利用案内

- ・文献の探し方・データベースの使い方（説明動画を学生ポータルサイトへ掲載）
- ・利用者講習会（SciFinder講習会（6月））

b) 広報活動

- ・学生選書の会（7月・10月）880冊選定
- ・ブックリユースコーナー常設
- ・企画展示

2. 研究支援

a) 電子ジャーナル・データベース・電子書籍

※一部学外利用可あり

b) 工学部研究報告（No. 55）、工学部紀要（No. 51）発行（電子ジャーナル化）

c) 学術リポジトリ

3. 社会貢献

高等学校、企業、地元団体等の施設見学案内

※一部コロナのため中止

4. 管理運営

a) 図書館システム運用

- ・学園資料取寄サービス運用（中央、農、医、生物理工、産業理工、九州短大、工）

b) 蔵書点検実施

c) コミックスコーナー用書架設置

1. 教育支援

- ① オリエンテーション(図書館利用説明、貸出・返却の手順や OPAC の操作説明など)の実施(毎年、本科学生入学時及び各種研修開始時)
- ② 学生・研修生に開館時間外(平日夜間及び土日祝日)にも図書館1階の一部を自習あるいは読書の場として開放(平成21年度から継続)
- ③ 学生・研修生が希望する新刊図書(専門書ではなく、読み物に限る)を継続して購入し上記②の時間外開放場所に配架(平成23年度から継続)
- ④ 「海上保安政策プログラム」(大学院修士課程)所属の海外からの留学生に対し、図書館蔵書検索等の支援を実施(平成28年度の同プログラム開始時から継続)

2. 研究支援

- ① 研究紀要「海保大研究報告」の発送事務(同研究報告発行の都度)
- ② 広島県大学共同ポジトリにコンテンツの登録(平成26年度から継続)、各コンテンツに DOI 付与(平成27年8月から継続)
- ③ 研究用図書については、講座教官の希望に基づき図書館で一括して購入発議、登録及び管理を実施(毎年度、随時)

3. 社会貢献

- ① 図書館1階を広く一般市民に開放、蔵書の閲覧、貸出等の希望に対応
- ② 約7,600冊の貴重図書(旧海軍大学校図書等)及び約7,700冊の海洋法ライブラリー図書に関する外部からの問い合わせ、閲覧・複写希望等への対応実施

4. 管理運営

- 特になし。

1. 教育支援

(1) ガイダンスの実施

- ・フレッシュマンセミナーにて新入生を対象に図書館の利用方法や文献検索について案内

(2) 広報紙『山女図書館通信』発行(月1回)

(3) イベント

- ・読書スタンプ30個(本学図書貸出1冊につき読書スタンプ1つ)と読書感想文5枚で図書カード贈呈(通年)
- ・図書1冊貸出につき応募券1枚で抽選し雑誌の付録をプレゼント(年2回)

2. 研究支援

(1) 紀要

- ・『山陽女子短期大学紀要』の発行(年1回)
- ・紀要の英文校閲支援

(2) 学科毎に予算を割当て、研究用図書を購入

3. 社会貢献

- ・学外者利用(閲覧のみ)

4. 管理運営

- ・書庫の整理、図書の移動(4,000冊)
- ・山陽看護専門学校の資料の受入・整理

承合事項 令和3年度の図書館活動について

回答大学名：呉工業高等専門学校

1. 教育支援

2. 研究支援

3. 社会貢献

4. 管理運営

- ・ 図書館棟改修終了，学生利用の再開。

1. 教育支援

- ・ 新入生ガイダンスの実施
- ・ 新任教職員へのガイダンスの実施
- ・ 進学予定者や専攻科生を対象にした文献検索ガイダンスの実施
- ・ 本科の1～3年生までを対象にした作文表現コンクールの実施
- ・ 奨学後援会寄附金による学生用推薦図書を購入
- ・ 船に関する読み物コーナーの設置

2. 研究支援

- ・ 研究紀要第44号の編集、発行
- ・ 退職教員の返却図書整理
- ・ 寄贈資料の受入

3. 社会貢献

- ・ 図書館だより第55号の作成と図書館ホームページでの公開
- ・ 一般利用者への公開、利用証の発行、図書の貸出
(2020年3月から一般利用は休止している)

4. 管理運営

- ・ 図書、雑誌の不用決定および廃棄作業
- ・ 書庫および開架書棚のカビ等の調査実施
- ・ 平日夜間と土日勤務の非常勤職員（学生）の雇用